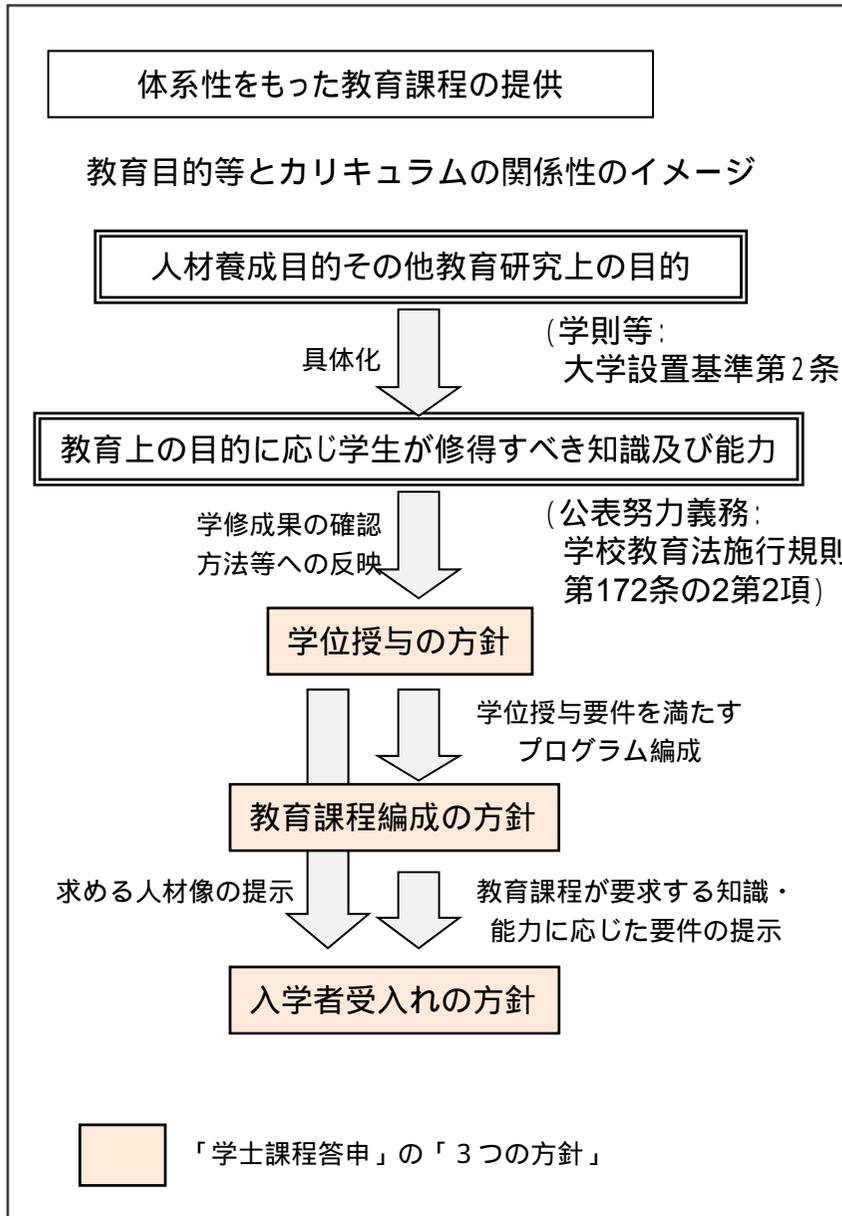


## 参考資料

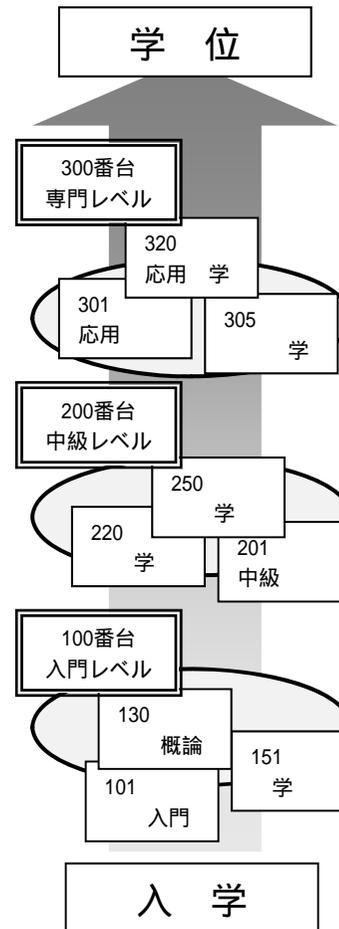
全学的な観点から体系立った教育課程 .....	1
大学連携によるFD・SDの取組 .....	4
IRの取組事例 .....	7
教員の教育面の業績評価の実施状況 .....	9
国立大学における教学マネジメントの仕組み .....	10
教学担当スタッフ（教学担当副学長等のサポート体制）の配置事例 ...	11
大学間連携の取組事例 .....	12

# 全学的な観点から体系立った教育課程



## 国際基督教大学のナンバリングの例

イメージ



- ・ 授業科目の学修段階や順序等の体系性を明示
- ・ 学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修できるようにする

例: 英語プログラム(中級基礎) 読解と論文作法  
→ELP001(アルファベットと数字で表記)

< 科目の分類 >

全科目 共通	語学教育	英語	ELP
	一般教育	人文科学系列	GEX
授業科目 別	アメリカ研究		AMS
	美術・考古学		ARA

< 科目の段階 >

001-099	語学教育科目(英語・日本語) 一般教育科目
101-199	メジャー基礎科目 全学共通初級科目
201-299	メジャー専攻中級科目 全学共通中級科目

# 全学的な観点から体系立った教育課程

大学教育部会（第15回）（H24年5月21日）新潟大学濱口副学長説明資料より

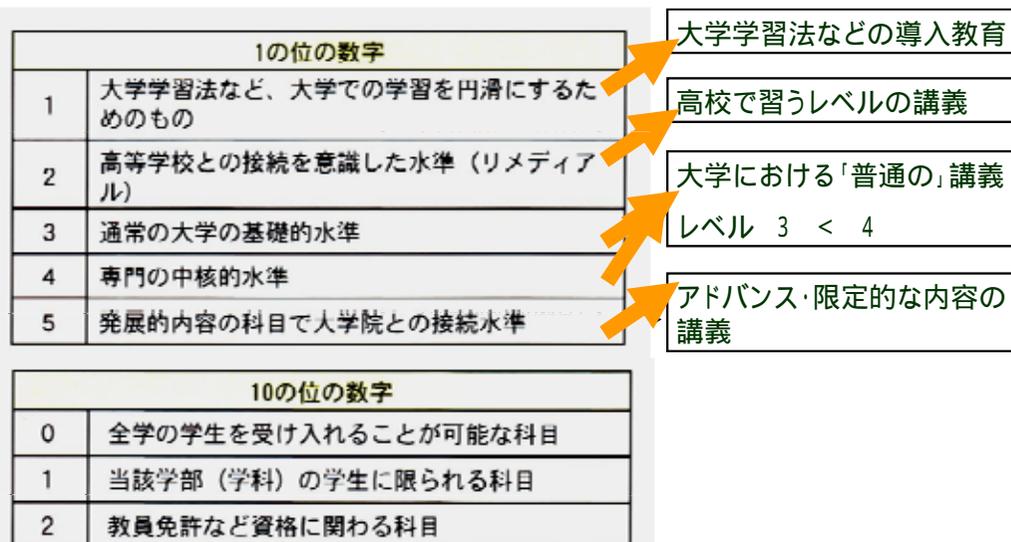
## 新潟大学の学士課程教育のデザイン

旧来型の共通教育と専門教育を廃し、育成する人材像に即した4年一貫の教育プログラム(主専攻プログラム)による教育を実現する。

1. 「教育資源」の共通化  
 教員組織と教育組織の分離  
 授業科目の共通化と分野・水準コードの付与
2. 人材育成目標に即した教育プログラムの構築  
 主専攻プログラムの整備
3. 学生の学習成果の実質化  
 新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)の構築

## 授業科目の体系化

### 水準コード



## 分野・水準表示法

### 全授業科目に分野と水準を示すコード

学生に、授業科目の学問分野と水準を示す  
 担当教員に授業科目の ” 公共性 ” の確保を要請する

分野は学問分野の区分：科研費の区分に準拠

教育プログラムに即したものではない

水準：内容の積み重ね

大学レベルの授業：3 / 4 / 5 の3段階

分野・水準                  授業科目の達成目標

## 学部・学科の教育課程の主専攻プログラム化 (学問分野を背景とした「学科」から「人材育成プログラム」へ)

### < プログラムの整備 >

- 設置目的を明示し、明確な人材養成目標(学習成果)を掲げる。
- その学習成果は、専門・教養を含めた到達目標とする。
- 学生が到達目標に至るための学習方略を明示する。
- プログラムは必要十分な授業科目から構成され、各授業科目と到達目標との関係を明示する。

### < プログラム担当教員集団の機能の明確化 >

- 担当教員集団がプログラムにおける教育活動について共通意志を持つ。そのための具体的方策(FD活動等)を備える。
- 主専攻プログラムの成果を検証し、プログラムの改革を進める “ しくみ ” を備える。

「プログラムシラバス」作成作業を通じて、抜本的改革を図る。

# 全学的な観点から体系立った教育課程 ~ 金沢工業大学のカリキュラム・フロー（マップ）の例 ~

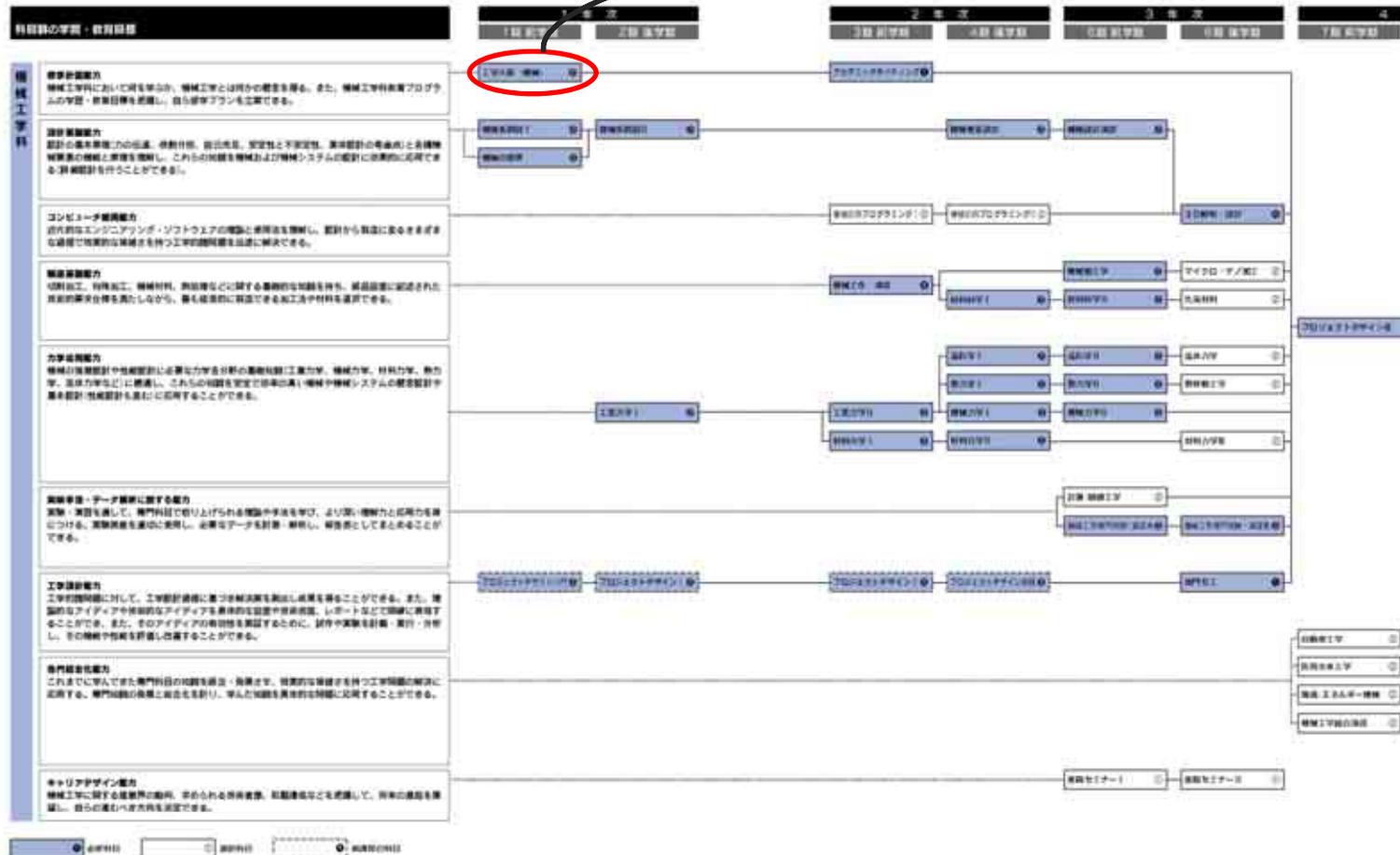
各学科が掲げる教育目標を明示するとともに、その目標達成のために必要な授業科目を系統的に配置し、その関連性を明示している。

## 機械工学科

Department of Mechanical Engineering

■学域・教育目標

機械工学科は産業基礎の中心をなす分野である。これまで自動車・家電製品、工作機械、エネルギー機械、福祉医療機器など多くの製品を産み出してきた。一方、省エネルギー、環境負荷低減、安全・信頼性向上への要求が高まってきている。本学科では、機械工学に関する基礎知識を身につけ、ものづくりのための設計・応用技術、新素材とその加工方法、導電・エネルギーに関する技術を修得し、社会的要請に対応できる機械技術者を育成する。

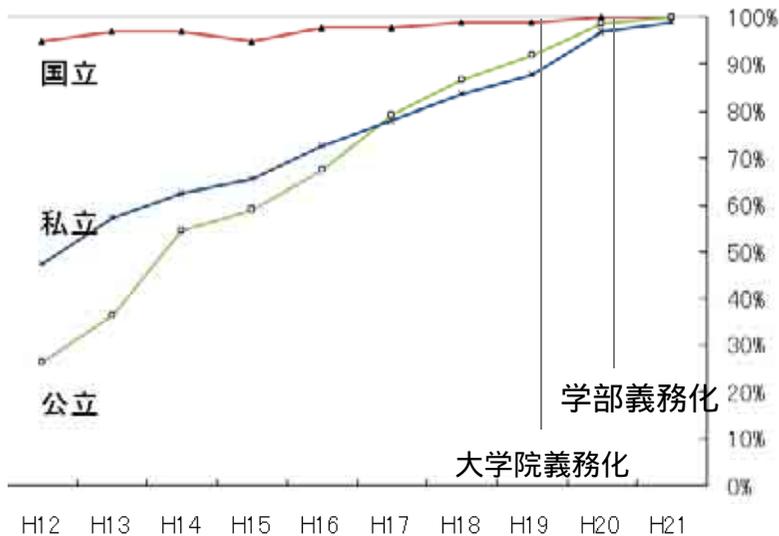


< 科目の概要 >

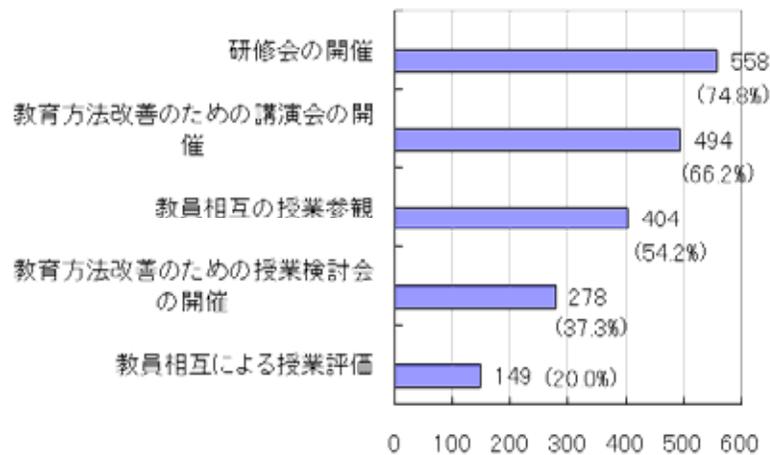
**E001 工学大意(機械) I**  
 社会を支える「ものづくり」の三大技術である機械分野、電気・電子分野、情報分野の技術について、工学と社会とのつながり、歴史および現在、未来の技術について学び、「自ら考えて行動する技術者」としての第1歩を踏み出す意識を明確にする。各分野における学ぶ領域、学問の広がりを選び、各自の将来の目標、夢を実現するためのキャリア形成を意識して、修学計画能力を身につけ、今後の学習姿勢を確立する。「覚える・暗記する」学習現象や物事の本質を論理的に考える力(科学力)、デザイン力の醸成を目標とする。  
**行動目標** 現代社会における工学部の役割を理解し、自身の修学計画を立案することができる。機械工学科の「学ぶ領域」、研究分野を理解し、今後の勉学の方法、履修計画について主体的に考えることができる。「設計」「機械加工」について概略を説明できる。「機械材料」「塑性加工」について概略を説明できる。「流体力学」「熱力学」について概略を説明できる。自身のキャリア形成プロセスを自身の言葉で述べ、それを第三者に伝える事ができる。

# 大学連携によるFD・SDの取組

(1) FDの実施率の推移



(実施内容)



(2)



全国私立大学FD連携フォーラム  
Japan Private Universities FD Coalition Forum

の例

## 実践的FDプログラムの開発・活用

教員の4つの活動(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、以下で構成。  
 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義  
 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ  
 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション  
 ポートフォリオの作成支援

各大学は、 の講義・講座を目的に応じて選択し、 やその他独自の研修などを組み合わせてFDを実施。  
 大学によっては、学長名の修了証を発行し、専門性の向上を証明できるようにしている。

	レベル1	レベル2	レベル3
教育	講義A (VOD) 講座B (WS)	講義C (VOD) 講座D (WS)	講義E (VOD) 講座F (WS)
	講義G (VOD) 講座H (WS)	講義I (VOD) 講座J (WS)	講義K (VOD) 講座L (WS)
社会貢献	講義M (VOD) 講座N (WS)	講義O (VOD) 講座P (WS)	講義Q (VOD) 講座R (WS)
管理運営	講義S (VOD) 講座T (WS)	講義U (VOD) 講座V (WS)	講義W (VOD) 講座X (WS)

【新任教員対象プログラム】

講義A (VOD)  
+  
講座B (WS)  
+  
講義C (VOD)  
+  
講座D (WS)  
⋮

【職員対象(SO)プログラム】

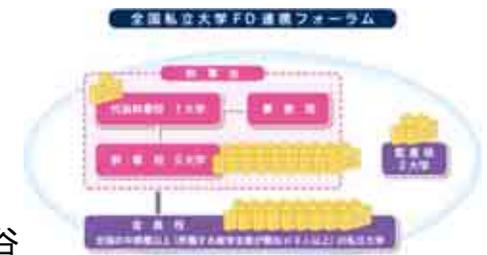
講義S (VOD)  
+  
講座T (WS)  
+  
講義U (VOD)  
+  
講座V (WS)  
⋮

※VOD：オンデマンド講義/WS：ワークショップ

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義 (VOD) や講座 (WS) を選択し、様々なプログラムを作ることができます。

(参加大学)

代表幹事校：立命館  
 幹事校：関西、関西学院、慶應義塾、中央、同志社、法政、明治、立教、早稲田  
 会員校：青山学院、神奈川、北里、京都産業、甲南、國學院、国土館、芝浦工業、創価、中部、帝京、東京農業、東北学院、名城、龍谷



(参考) 実践的FDプログラム 2012年プログラム一覧  
オンデマンド講義

講座名	テーマ	講師 (敬称略)	所属 (※撮影時点)	対応 言語
高等教育論 I	現代の高等教育	金子 元久	東京大学	日・英
高等教育論 II	高等教育研究史	有本 章	比治山大学	日
高等教育論 III	大学改革とFD研究	江原 武一	立命館大学	日・英
高等教育論 IV	大学評価論	安岡 高志	立命館大学	日・英
高等教育論 V	高等教育政策:戦後日本の大学政策(転換期の大学政策、海外との比較)	高野 和子	明治大学	日
高等教育論 VI	接続教育 I:初年次教育の取組	山田 礼子	同志社大学	日
高等教育論 VII	大学の国際化	モンテ・カセム	立命館大学	日・英
教授学習理論 I	教授・学習の理論と教育実践(1)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教授学習理論 II	教授・学習の理論と教育実践(2)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教授学習理論 III	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦 真琴	関西大学	日
教育方法論 I	教育工学の観点から	林 徳治	立命館大学	日・英
教育方法論 II	高等教育における授業技術	木野 茂	立命館大学	日・英
教育方法論 IV	学習教材作成における著作権等の理解	坂井 知志	常盤大学	日
教育方法論 V	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡 高志	立命館大学	日
教育方法論 VI	情報活用基礎:ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島 英博	名城大学	日
授業設計論 I	大学の授業の設計	沖 裕貴	立命館大学	日・英
授業設計論 II	授業設計と授業方法・技術・評価	横田 学	京都市立芸術大学	日
教育評価論 I	成績評価の意味と方法	鳥居 朋子	立命館大学	日・英
教育評価論 II	目標測定に基づく評価	野嶋 栄一郎	早稲田大学	日
教育評価論 III	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田 佳代子	大学評価・学位授与機構	日
心理学 I	青年期の心理	白井 利明	大阪教育大学	日・英
心理学 II	発達の原因と各段階の特性	西垣 順子	大阪市立大学	日・英
心理学 III	臨床心理学の基礎と応用	串崎 真志	関西大学	日・英
心理学 IV	発達障害のある学生の学び -アスペルガー症候群を中心に-	荒木 穂積	立命館大学	日
研究者倫理 I	教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理	望月 昭	立命館大学	日
研究のアウトリーチ活動 I	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田 利弘	東京大学	日
大学管理運営 I	大学教職員のための大学管理運営基礎	砥塚 浩	立命館大学	日・英
大学管理運営 II	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	山本 真一	広島大学	日・英
大学管理運営 III	リスクマネジメント:大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口 博	東京ゆまにて法律事務所	日
大学管理運営 IV	IR 入門	鳥居 朋子	立命館大学	日
大学管理運営 V	業務改善のための IR	池田 輝政	名城大学	日
大学管理運営 VI	ADMINISTRATIVE STAFF DEVELOPMENT 大学管理職の職能開発	ブルース・ストロナク	テンブル大学ジャパン	日・英
大学管理運営 VII	POCA サイクルを理解する	安岡 高志	立命館大学	日

FD概論 I	大学におけるマイクロ・ミドルレベルでのFD活動	佐藤 浩章	愛媛大学	日
FD概論 II	大学におけるマクロレベルでのFD活動	川島 啓二	国立教育政策研究所	日
プロジェクト・マネジメント	FD 活動推進等の大学経営革新に活かすプロジェクト・マネジメント	牧野 光昭	(社)日本能率協会	日

など

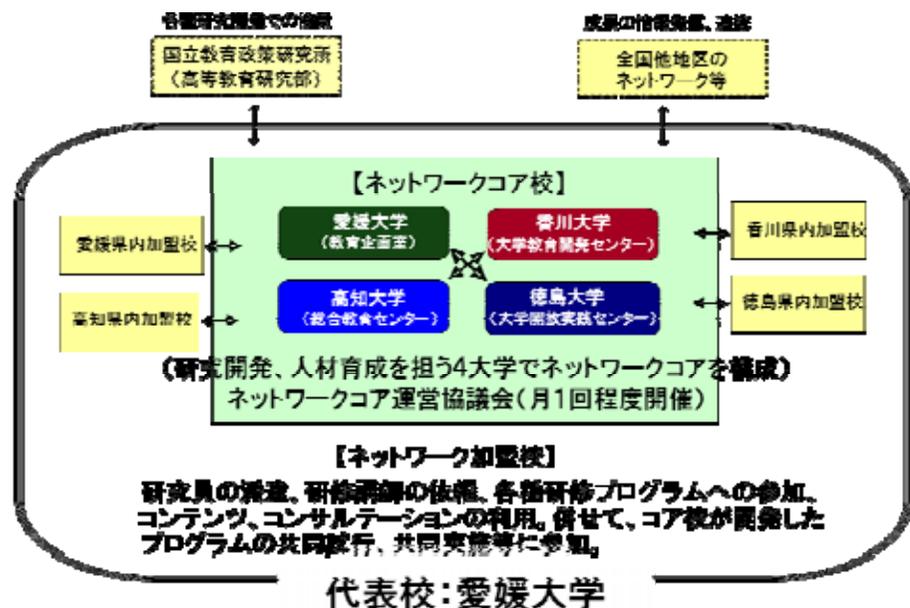
ワークショップ

講座名・テーマ	到達目標	開催日	講師
「教育方法論演習 II」 良い授業のための留意点 -話し言葉に着目して~ 図形並べ	①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する(知識) ②フィードバック(質問、聞き直し)がある場合とない場合で、どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する(知識) ③教員が得意とする言語情報(verbal communication)の限界を体験する(知識、技能)	2012年 7月14日 (土)	林 泰子 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教育方法論演習 III」 良い授業のための留意点 -非言語・視覚情報の応用~ 無言面接	①自分の表情、アイコンタクト、態度が他人に与える印象を知る(知識) ②状況に応じて自分が相手に好印象を与える表情、態度、アイコンタクトを演じることができる(技能)	2012年 7月14日 (土)	鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「心理学演習 I」 聴き手に求められる力	①聴き手の姿勢や態度が話し手の話し意欲に影響することに気づく(技能) ②話し意欲を高める/損なう要因を知る(技能)	2012年 8月2日 (木)	林 徳治 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「教育評価論演習 II」 ~ティーチング・ポートフォリオの作成(仮)	①実際のシラバス教材、評価アンケートの結果など、自分の教育活動の根拠となる資料を用いて、ティーチング・ポートフォリオを作成することができる(技能) ②授業改善のためティーチング・ポートフォリオを積極的に活用する(態度)	2012年 8月2日 (木)	鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 教授 林 泰子 講師
「授業設計論演習 I」 シラバスと授業の到達目標の書き方	①シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「授業設計論演習 II」 強制連結法による授業設計	①強制連結法を用いて授業を設計することができる(技能)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「授業設計論演習 III」 マイクロティーチングと評価	①強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる(技能) ②公開授業等において、授業評価を行う際に求められる観点を知り、適切な評価を行うことができる(技能、態度)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「教育評価論演習 I」 学習到達度評価~ルーブリック評価の実際	①授業の到達目標に合った試験、課題等が作成できる(技能) ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる(技能) ③評価結果を学生にフィードバックすることができる(技能)	2012年 9月21日 (金)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「心理学演習 II」 受容的に聴く力 ~イース・バラ法	①大、バラ法を用い、「あいづち」や「相手の言葉を繰り返す」技術を身に付ける(技能) ②相手の話の背景にある意見や気持ちを思い浮かべることができる(技能)	2012年 11月10日 (土)	川原部 隆司 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「心理学演習 III」 アサーション・トレーニング	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知る(技能) ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導ができる(技能)	2012年 11月10日 (土)	安岡 高志 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「教授学習理論演習 I」 アクティブ・ラーニングの方法と実践~ピア・サポーターの活用を中心に	①ピア・サポーターを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる(態度)	2012年 12月1日 (土)	江原 武一 立命館大学 教育開発推進機構 教授
「教授学習理論演習 II」 アクティブ・ラーニングの方法と実践~ICTの活用を中心に	①ICTを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる(態度)	2012年 12月1日 (土)	宮浦 崇 立命館大学 教育開発推進機構 講師

# 大学連携によるFD・SDの取組

大学教育部会（第15回）（H24年5月21日）愛媛大学佐藤准教授説明資料より

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)の組織図



FDer養成講座過去4回開催(各回全国から50名程度の参加者)

## 主な対象

大学教育センター等でFDを主要な業務として担当する教職員

## 到達目標

1. 全学のFDを推進・牽引するリーダーとして必要な知識・技術・態度を身につける。
2. 研修講師や会議のファシリテーターとしての卓越した技術・態度を身につける。
3. 自らの活動を振り返り、抱えている課題を客観的に分析し、他者からの助言を踏まえて、解決策を見出すことができる。



FDer入門講座【東京】

## 内容

- ・FD専任担当者としての自らの活動の振り返り、課題分析、ディスカッションを通じた解決策の模索
- ・自らの組織文化にあわせた、FD推進戦略立案
- ・実践を基盤とした研究(高等教育開発研究)の課題と可能性

## SPOD研修講師派遣事業

加盟校がSPODに加盟するメリットとして、加盟校単位で希望するプログラムを、SPODから研修講師を年1回無料で派遣。初年度はコア校の講師11名を23機関に派遣。

平成23年度SPOD内講師派遣実績

【派遣機関】 23機関 【派遣講師】 11名

【受講者数】 654名(うち学外44名)

【アンケート結果】 19機関に実施

参加者の約94%が「全体的に満足」と回答。



様々な授業改善の技法  
平成23年9月7日、  
高知県立大学・高知短期大学

## 【本事業実施による成果】

- ・小規模校においても、質の高い研修プログラムの受講が可能となり、学内で教育改革や自らの能力開発に取り組む状況が生まれてきた。
  - ・加盟校からの意見・要望を含め、FD/SDに関する情報共有も行われるようになった。
- 派遣した全機関から本事業の継続希望があった。

## FDファシリテーター養成研修

目的:各加盟校におけるFDを企画・実施できるFDリーダーの養成  
実績:地域別に2回(計27名参加)開催

6月:東四国(徳島・香川)対象 10月:西四国(愛媛・高知)  
事後アンケート:参加者の93%から「満足」という回答。



FDファシリテーター養成研修(東四国対象)  
平成23年6月25日~26日、  
国立淡路青少年交流の家



FDファシリテーター養成研修(西四国対象)  
平成23年10月8日~9日、  
愛媛大学 愛大ミュージアム

過去3年間の参加者:計97名

各大学等でのFD担当者の育成が進んでいる

# I R の取組事例

## 相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出 - 国公立4大学 I R ネットワークの例

構成大学: 同志社大学(代表校)、  
北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

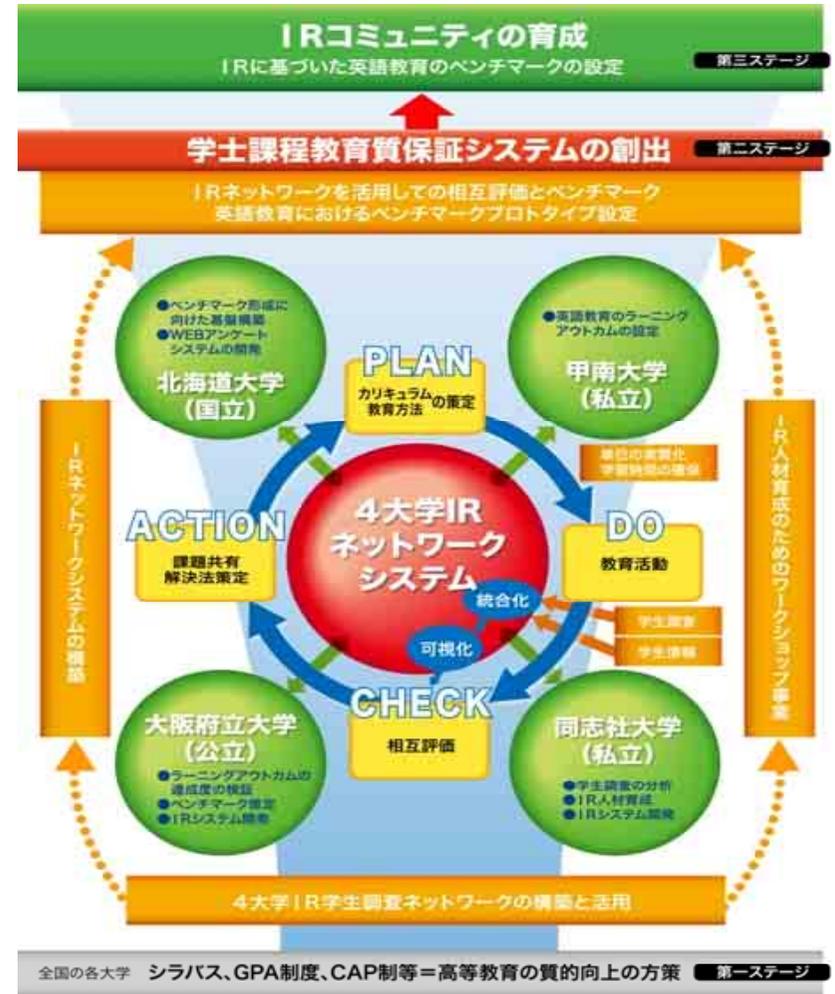
国公立4大学の連携により、学生調査分析を軸とするIR機能の開発を基盤として、IRを通じた連携大学間での相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出と全国規模のIRコミュニティの育成を目指す。

### 連携取組の内容

- ・4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用
- ・連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築
- ・IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング
- ・IR人材育成のためのワークショップ事業

### 期待される効果

- ・設置形態の相違を超えた国公立大学の連携による、学士課程教育の質保証に向けた新たなモデルの構築
- ・学生調査に基づくIRの展開により、4大学それぞれの長所・短所を把握、さらにPDCAサイクルの常態化による短所の改善と長所の更なる伸長
- ・IRのノウハウの共有化によるIR人材育成と日本版IRモデルの構築
- ・英語科目のナンバリング制の実施による、汎用性のある英語ベンチマークの設定



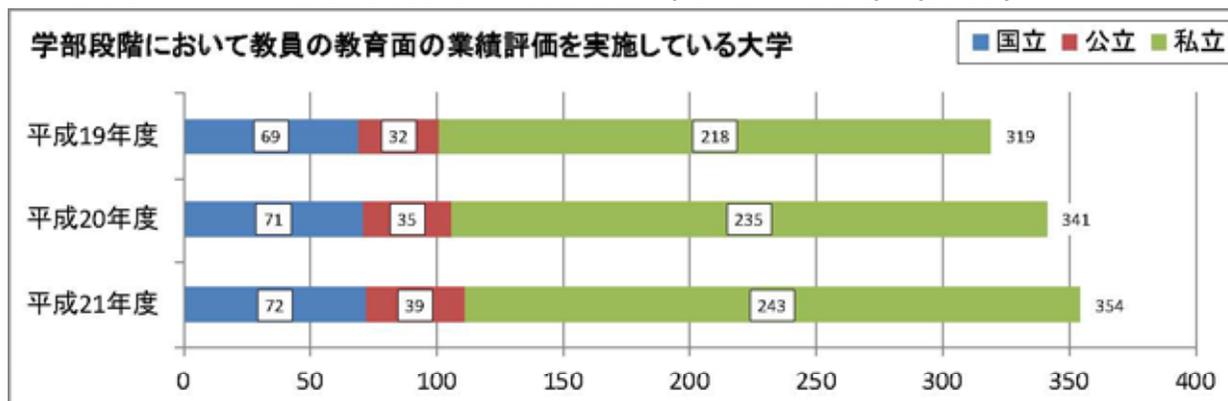
→ 4大学連携により開発したシステムやノウハウを基盤としたコンソーシアムをH24.7に設立予定。

# IR推進室での分析実績（例示）

分析テーマ	分析ポイント
公務員試験における合格・不合格学生の特性分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時公務員就職希望者の受験率</li> <li>・公務員試験対策の効果測定</li> </ul>
社会福祉士国家試験合格・不合格学生の特性分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ別合格率の分布</li> <li>・入試形態別の合格率</li> <li>・国家試験対策利用者別の合格率</li> </ul>
本学経済・福祉経営学部の志願者・入学者特性分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出身校別志願者と入学者に関する分析</li> </ul>
本学卒業生に対する社会人教育プログラムニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業分野別学習ニーズ調査・分析</li> <li>・職種別学習ニーズ調査・分析</li> </ul>
付属高校出身学生の学習状況等における現状分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修得単位数、GPA、社会福祉士国家試験結果、離学状況等の現状把握</li> </ul>
学生のSPI得点と成績の関係分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校ランク、入試形態別のSPI得点とGPAの関係分析</li> <li>・就職志望業種とSPI得点の関係分析</li> </ul>

## 教員の教育面の業績評価の実施状況

### 「大学における教育内容等の改革状況(平成21年度)」(抜粋)



(実施例)

#### 北見工業大学

評価項目は、授業負担(学部等区分、単位、受講学生数、授業開講数等)、授業評価(学生授業評価、自己評価)、学生指導(卒論等の学生指導、学生の学会発表指導)等。

評価結果は、各年度毎に取りまとめ、学外に広く公表するとともに、教育研究費配分、賞与、昇給等に活用。

#### 三重大学

評価項目は、担当科目数、指導学生数、授業外のゼミ等の学習・研究指導時間数、教育内容・方法面での取組、学生支援の取組、FD活動等。

「特に優れた者」と「改善を促す必要のある者」を特定し、学長に報告。平成21年度より給与面でのインセンティブを付与。

#### 秋田県立大学

評価項目は、「授業の目的や明確さ」、「事前準備」、「授業に対する熱意」、「授業内容や進め方」等。

外部評価者と委託契約を結び、全ての教授、准教授の授業評価を実施。

#### 岩手医科大学(歯学部)

評価項目は、講義・実習・演習、チュートリアル、オフィスアワー、課外活動、各種試験出題、大学院・研究生に対する指導、FD参加等。

それぞれの実総時間を調査し、評価点を算出し、学生による評価も実施。評価結果は、教員本人に通知。

#### 芝浦工業大学(工学部)

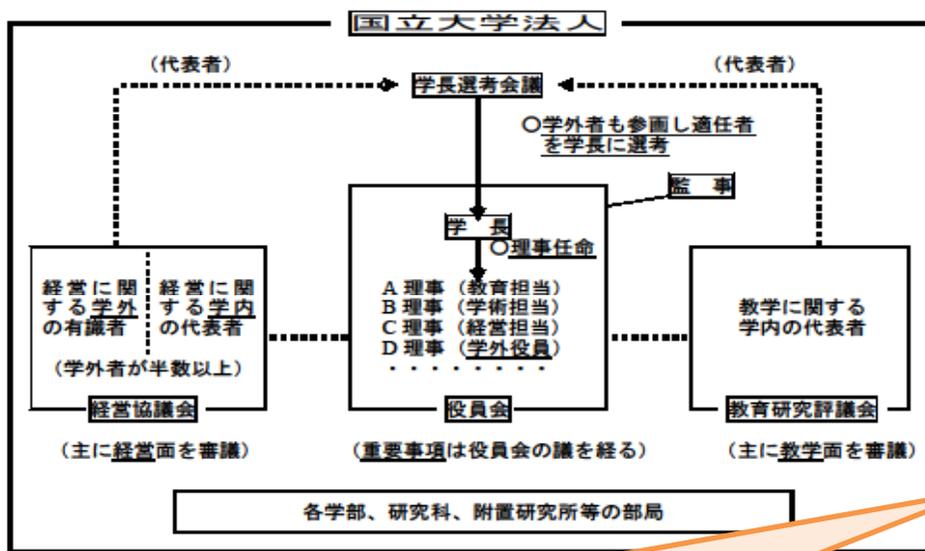
答案の電子化で習熟度を数値化し、統計的に把握。教育賞を与えFD講演会でプレゼンを実施。

### 「国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成21年度に係る業務の実績に関する評価の概要」(抜粋)

教職員の個人評価結果を給与等処遇へ反映している法人が平成20年度と比較すると14法人(28%)増の64法人(71%)と大幅に増加しており、全体の7割を超えている。

(平成21年度:64法人(71%)、平成20年度:50法人(56%)、平成19年度:34法人(37%)、平成18年度:19法人(21%)、平成17年度:9法人(9%))

# 国立大学における教学マネジメントの仕組み



## 教育課程の編成に関する方針 (例)

### A大学

教育課程は、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

### B大学

学位授与の方針、教育研究上の目的と整合性のとれた教育課程の編成を行う。

優れた教育者の養成を目指し、教養、専門性、実践力、社会性、自己実現力などの学士力を涵養するため、教育課程に教養科目、外国語科目、保健体育科目、専門科目、自由選択単位、卒業研究を設ける。

学士力と到達目標の実現に向けて順次性のある体系的な教育課程を編成する。

育成すべき学士力と学士課程の到達目標の実現に向けて、初年次教育から卒業研究に至るまで、教養教育と専門教育の関連付けに配慮し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。

多様な授業方法の採用や体験活動などの充実により教育方法の改善を図る。

教育研究上の目的等に即して、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数・双方向的な授業、学生参加型授業、課題解決・探求型授業、情報通信技術を活用した授業などを工夫するとともに、教育実習、インターンシップなどの体験的な学習活動の充実を図るなど、教育方法の改善を図る。

シラバスの充実、十分な授業回数の確保などにより単位制度の実質化を図る。

単位制度の実質化を図るために、シラバスに各科目の到達目標、学修内容、準備学習の内容・時間、成績評価の方法・基準などを明示するとともに十分な授業回数を確保し、登録単位数の上限設定や授業時間外での学習指導の実施を行い、学修の充実を図る。

明確な成績評価基準に従い、教育の質保証に向けた厳格な成績評価を行う。

明確化された到達目標と成績評価基準に従い、厳格で質の高い成績評価を行うとともに、GPAなどの学習評価システムにより学習成果を組織的に評価する制度を活かして、教育の質保証に向けた成績評価の取り組みを行う。

## 国立大学法人法(抄)

(教育研究評議会)

第21条

(略)

3 教育研究評議会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 中期目標についての意見に関する事項(経営に関する事項を除く。)
- 二 中期計画及び年度計画に関する事項(経営に関する事項を除く。)
- 三 学則その他の教育研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- 四 教員人事に関する事項
- 五 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- 六 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- 七 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- 八 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- 九 その他国立大学の教育研究に関する重要事項

(経営協議会)

第20条

(略)

4 経営協議会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 中期目標についての意見に関する事項のうち、国立大学法人の経営に関するもの
- 二 中期計画及び年度計画に関する事項のうち、国立大学法人の経営に関するもの
- 三 学則、会計規程、役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準、職員の給与及び退職手当の支給の基準その他の経営に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- 四 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項

## 旧国立学校設置法(抄)

(評議会)

第7条の3

(略)

5 評議会は、次に掲げる事項について審議を行う。

- 一 大学の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- 二 学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- 三 大学の予算の見積りの方針に関する事項
- 四 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項
- 五 教員人事の方針に関する事項
- 六 大学の教育課程の編成に関する方針に係る事項
- 七 学生の厚生及び補導に関する事項
- 八 学生の入学、卒業又は課程の修了その他その在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- 九 大学の教育研究活動等の状況について当該大学が行う評価に関する事項
- 十 その他大学の運営に関する重要事項

(教授会)

第7条の4

(略)

4 教授会は、次の各号に掲げる事項について審議を行う。

- 一 学部又は研究科の教育課程の編成に関する事項
- 二 学生の入学、卒業又は課程の修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- 三 その他当該教授会を置く組織の教育又は研究に関する重要事項

# 教学担当スタッフ（教育担当副学長等のサポート体制）の配置事例

## 新潟大学 教育・学生支援機構

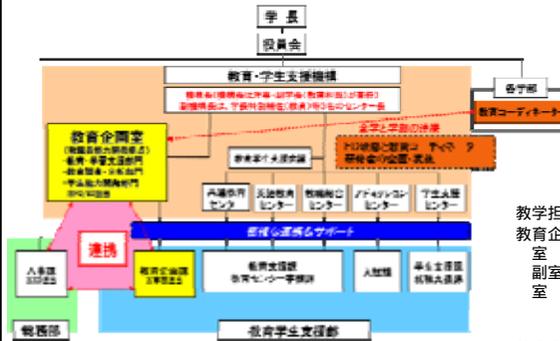
1. 入学者の選抜に係る調査・分析
2. 入学者選抜試験の実施方法等の改善
3. 入試広報
4. 学士課程教育の実施と改善
5. 大学院課程教育の実施と改善
6. 副専攻プログラムの実施と改善
7. 学士力アセスメントシステム(NBAS)の開発と運用
8. 学生の修学支援及び生活支援
9. 学生相談
10. 学生の就職等進路支援
11. 教員の教授方法等の改善・向上のための研修の実施
12. FDの整備及び実施
13. 教員養成の支援
14. その他教育、学生支援等の改善に関し必要な業務



【スタッフの能力開発等】  
自己啓発支援と能力開発のための職能開発研修を実施

## 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発
3. 授業評価及びシラバスに關すること
4. 学生の学習支援及び能力開発
5. その他教育開発に係る調査、研究等



【教育企画室の概要】  
教職員能力開発のための研修の企画・実施・教材開発・講師派遣、各種コンサルティング、FD/SD実践の指導者の育成、及び愛媛大学が代表校を務める「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」の業務など、学内外で幅広く活動を実施。  
また、学内ネットワークのハブ機能も担う。

教育企画室 (教員組織) 8名 (専任7名、兼任1名)  
室長: 1名 教授1 (医学教育)  
副室長: 2名 教授1 (高等教育経営)、准教授1 (職業教育学)  
室員: 5名 准教授1 (青年心理学)、助教2 (教授システム学) (水文学)  
特任助教2 (組織心理学) (高等教育政策)  
教育企画課 (職員組織) 16名  
課長1、係長2、課員5、非常勤8

【スタッフの能力開発等】  
FD担当者: ファカルティ・ディベロッパー養成講座や諸外国のFD担当者向けプログラムへの参加、学内外で研修講師を担当することによる実践者としての力量形成。  
SD担当者: SDC(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター)の認定制度を創設し、SDCに必要な知識・技能の習得を奨励。SPODでは、次世代リーダー養成研修や講師養成研修など内部講師を養成するための研修を提供しており、これらに参加することによって、能力開発を日常的に実施。

## 北九州市立大学

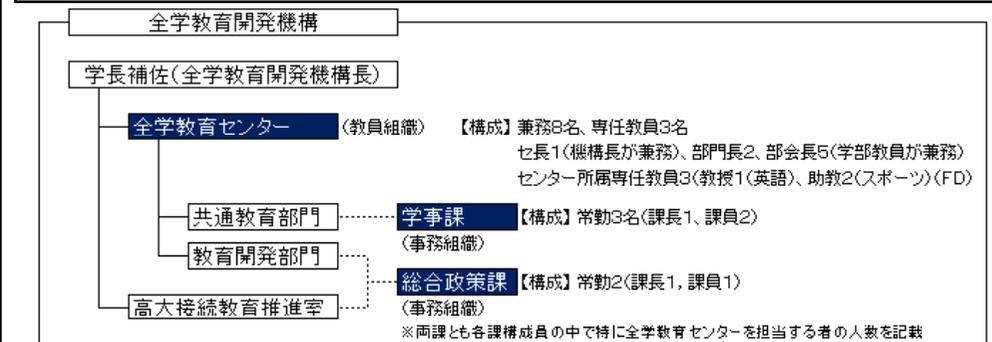
- 【学位授与方針等の作成と、これを踏まえた教育課程の見直しなどの大幅な見直し】  
経営企画課(事務組織)が学長・副学長の下に各種委員会やワーキンググループ、カリキュラムコーディネーター等を組織してサポート。
- 【通常の教育内容・方法の見直し】  
学務第一課(事務組織)が学部教授会、教務部委員会等をサポート。
- 【教育改善に向けた教育情報の収集・分析】  
副学長を室長とする「教育開発支援室」を設置し、経営企画課がサポート。  
学生の健康管理、心理面への対応として、学生相談室に保健師、看護師、心理カウンセラーを配置。



【スタッフの能力開発等】  
各種事務研修のほか、専門スタッフとしてアドミニストレーターを養成(桜美林大学大学院に職員1名派遣)

## 日本福祉大学 全学教育開発機構

1. 全学および学部間共通科目の研究・開発
2. 全学的なFDをはじめとする教育力向上のための研究・研修事業
3. 入学前教育、初年次教育、教養教育、語学教育、情報教育、体育教育などの共通教育プログラムの研究・開発
4. ICT活用による教育の情報化の推進
5. オンデマンド教材の研究・開発
6. 学生の基礎学力サポート
7. 高大接続教育の推進



共通教育部門の下に外国語教育・スポーツ教育・基礎教養・情報教育の4部会、教育開発部門の下に教育支援・学習支援の2部会を設置。

【スタッフの能力開発等】  
オンデマンドコンテンツの開発を通じた教育改善やFDを実施する上で必要となるインストラクショナル・デザインの能力開発を実施(熊本大学大学院に職員2名派遣)

# 大学間連携の取組事例

## 国公立の設置形態を超えた大学間連携が進展

**「キャンパス都市函館」構想**  
〔北海道教育大学、公立はこだて未来大学、函館大学、函館大谷短期大学、函館短期大学、函館工業高等専門学校〕

教育学、システム情報、商学、食物栄養学、機械工学など分野の異なる6つの機関が連携し、それぞれの強みを生かして地域性に着目した特色あるカリキュラムを開発・提供。

**岩手県における知の拠点形成**  
〔岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学〕

県内5つの大学が、共通キャンパスの整備、教員研修、国際交流、生涯学習の提供、高校へ講義配信などを共同で実施し、地域の中核を担う人材の育成や県内の大学進学率向上に努めている。

**香川県における高度医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム**  
〔徳島文理大学、香川大学、香川県立保健医療大学〕

徳島文理大学(薬剤師)、香川大学(医師)、香川県立保健医療大学(看護師)の3大学が連携して、共同授業や共同研究、設備の共同利用等を通じ、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な医療人を養成。

**北九州学術研究都市連携大学院によるカーエレクトロニクス高度専門人材育成拠点の形成**  
〔北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学〕

北部九州地域の国公立の理工系大学院がそれぞれの強みを生かした教育内容を提供し、カーエレクトロニクスの領域において、次世代を担う高度専門人材を育成。

## 国立大学間の連携による高度化・効率化が進展

**帯広畜産大学・北海道大学獣医学共同教育課程**

**京阪奈三教育大学連携推進事業**

教員養成や事務処理の効率化等の連携により事務機能を強化  
〔京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学〕

**岩手大学・東京農工大学獣医学共同教育課程**

**道内国立大学法人連携機能強化事業**

資源の効果的・効率的活用のため、事務の共同化処理について検討

〔北海道大学、北海道教育大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学〕

**東海地区国立大学法人共同事務コンソーシアム**

共通する事務の統合・共同処理等により効率化・省力化を実施

〔名古屋大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、岐阜大学、三重大学、静岡大学、浜松医科大学、豊橋技術大学〕

**山口大学・鹿児島大学共同獣医学部**

**静岡大学・愛知教育大学共同教科開発学専攻**